

尾州有楽流・風炉・薄茶・平点前

※風炉の場合は基本的に棚は使わず、台子・長板か置き・運び水指。（台目構えの場合は、雲雀棚等に種々飾り付けあり）

※風炉釜については、基本的に切合は台子のみ。また風炉に鎧がある場合、左の鎧を下げる、右の鎧を上げる。

※茶碗には茶巾を入れ、茶筅を穂先を上にして仕組み、茶杓を俯けて置く。

※建水には蓋置を置き、柄杓を、合を落として掛けておく。



茶道口にて挨拶

運び水指ならば水指を持って入り、水指を風炉釜の真横に置く

茶器（右手）・茶碗（左手）を持って入り

茶器・茶碗をそのまま居前に置き、右手で茶器を水指右前に進め、茶碗を左手で茶器の左に進める

（茶碗の左端と茶器の右端の中央が水指の中心になるように）

建水を左手で持って入り、左膝左あたりに置き

柄杓を左手で取って右手に持ち替え、

左手で蓋置を取って右手の柄杓と持ち替え

右手で蓋置を持って右膝上あたりで正面を確認し、

敷板左の敷板から出ないあたりに置く

（竹蓋置で節のある場合は節が正面）

柄杓を右手で蓋置に引く（切留は釜の蓋の摘みの位置）

客へ挨拶（「お楽に御座候へ」等）

茶碗を左手で取り、右手で居前の少し向こうに置く

茶器を左手で取り、居前に置く

帛紗を草に捌く

※帛紗を扱いて（縦に折って）半分に折ったあと人差し指をかけて二つ折にする

棗の蓋上を横一文字に拭き、拭き下げる

(中次など棗以外の茶器は蓋上を丸味をつけて拭き、拭き下げる)

茶器を水指前中央に置く

再度帛紗を捌き、二つ折して上の角を折り込み、

先ず茶杓を平面・側面と二度拭く

折り込んだ帛紗の上の角をひろげて取り、再度捌いて二つ折りし

二つ折りのまま、茶杓の追取を拭く

茶杓を茶器の上にのせる (中央少し左 (壁付) に)

茶筅を取り、綴じ目を見て、茶器の右、茶器から少し下がったところに置く

茶碗を少し手前に引く

柄杓を取って、左手の帛紗と持ち替え

右手の、茶杓を拭いて逆折になっている帛紗をさっと草のかたちに戻す

帛紗で釜の蓋を先ず閉め、

帛紗を打ち返して勝手付に向かって釜の蓋上を清める

帛紗をまた打ち返して釜の蓋をあけ、蓋置に置く

帛紗を右膝上で広げて腰に付ける

※帛紗を上下方向に打ち返して、帛紗の下の角を取って広げ、二つ折りにして

そのまま腰に付ける

茶巾を釜蓋の上に置く

湯を一杓汲んで茶碗にそそぎ、柄杓を釜に「引き柄杓」で掛ける

茶筅打ちを三回おこない、さっと茶筅を振る

茶碗を取って、逆廻しにさっと回し

茶巾を取って右手に持たせて右手は膝上におき

茶碗の湯を捨て、茶巾で露を切り、茶巾を茶碗のなかに入れる

茶巾をひろげ、茶碗を拭き (※茶巾で挟むように茶碗の外側面・内側面を拭い

てから茶碗の見込みを「ゆ」の字のように左・右・真中と拭く)
茶碗を置いて、茶巾を畳み直し、茶巾を蓋置上に置く

手の湿りを取る

右手で茶杓、左手で茶器を取って、茶杓を握り込んで蓋をあけ、茶碗の右か斜め下に置く

茶杓で適量の茶を茶碗に入れ、茶器内の茶をすくった跡を整え
茶碗のなかの茶をよくこなす

茶碗の縁で茶杓を打って茶杓についた茶を落とし、茶杓を握ったまま茶器の蓋をして、茶器を元の位置に置き、茶杓も茶器の上に置く

水指の蓋をあける

(右手で取って左手に持たせ必要ならば露を切り、右手で水指の右に置く)
(左側の風炉先に立て掛けても良い)

柄杓を「水の行」(柄を上から持って合を釜の口につけたまま水平に持ち上げ、スプーンの持ち方に持ち替える)で取り、水指から水を一杓汲んで釜に入れ、そのまま湯を汲み、適量を茶碗に入れる

※二服目以降の場合は、釜に水をさすことはせず、そのまま湯を汲む(「切り柄杓」で取る)

残りの湯を釜に戻して、柄杓を釜に「切り柄杓」で掛ける

茶筅を取ってさっと手早く茶を点て、茶筅を元のところに戻す

茶碗を右横に仮置きして振り向き
茶の点て具合を確認し、茶碗を客に向けて出す

(※客から「頂戴します」の挨拶)

茶碗が戻ったら客付に振り向き、茶碗を取り込んで茶碗内を確認

風炉に向かい、茶碗を居前に置く

柄杓を取り、湯を汲んで、茶碗に入れる

柄杓を釜に掛け、茶碗を取って、よく回して茶を落とし
湯を捨てて、茶碗を居前に置き、終いにする旨の挨拶

柄杓を取って左手を添えて持ち直し（「水の真」）、水を一杓汲んで茶碗に入れ
再度柄杓を左手を添えて持ち直し「止め柄杓」で釜に掛ける

茶筅を取って茶碗に入れ、茶筅打ちを一度して茶筅をすぐ

茶筅を元の通りに置き、茶碗を取って水を捨て、茶碗を居前に置く
茶巾を取って茶碗に仕込む

茶筅を取って、左手を添えて持ち直し、綴じ目を上にして茶碗に仕込む

帛紗を取って捌き、二つ折して上の角を折り込み、茶杓を取ってまず一度拭く
帛紗の上の角の折り込みを外して再度拭く（折り込んだまま再度拭いても良い）
帛紗に茶が付いていたら建水上で払う（茶杓を持ったままでよい）
再度捌いて二つ折りし、そのまま茶杓の追取を拭く

茶杓を茶碗にわたして掛ける

帛紗を腰に納める

茶器を右手で右に移し、茶碗を右手で取って左手で茶器の左に移す

柄杓の柄を上から取って、合を水指の前の縁に仰向けに掛けて持ち直し、水を
汲んで釜に入れ
水を入れ終えたら湯返しし、釜の前の縁に柄杓の合を掛けて持ち直す
柄杓を左手に持ち替えて構え、右手で釜の蓋をする

そのまま右手で蓋置を少し手前に移す

柄杓の合をその蓋置の上に置き、
左手で建水を引いて、その建水の縁に柄杓の柄を掛ける

左手で水指の蓋を取り（どうにも取り難ければ右手で）
右手に持ち替え水指の蓋を閉める

客から拝見の所望を受ける

茶器を右手で取り、客付に振り向き、居前に置く

右手で茶碗を水指の真中通りに移す

帛紗を草に捌いて、左手で茶器を取り、点前の始めと同じ方法で清め、右手の帛紗と左手の茶器を入れ替えて、左手の帛紗の上で右手で茶器を客付にまわし、右手で鍵畳に出す

帛紗を袂に入れる（懷中してもよい）

茶杓を右手で取って客付に向け、鍵畳上、茶器の下座に出す

※柄杓・蓋置・建水を持って下がる前に、先に茶道口の襖を開けておく

柄杓を右手で取り、蓋置を左手で取って右手に持たせ、
建水を左手で取って、左廻りして茶道口に下がる

茶碗を右手で取って、右廻りして下がる

運び水指ならば、水指を左膝前あたりに移し、元の水指があった箇所の畳を手で拭き、水指を持ち右廻りして下がる

茶道口を閉め、道具が戻るのを待つ

道具が戻ったら茶道口を開けて出る

客付に向いて座り、右手で茶器を持って縁内・居前に置き
また右手で茶杓を取って左手に持たせ
右手で居前の茶器を持つ

客から一札があるので、道具を持ったままお辞儀をする

茶道口の脇に茶器・茶杓を置いて挨拶

※拝見無しの場合は、建水等を引いたあと、また出て左手で茶碗・右手で茶器の順に居前に一旦置き、右手で茶器・左手で茶碗の順に持ち上げて、水屋に引く（置き水指であれば両器を茶道口の脇に置いて挨拶して終り、運び水指であれば上述の通り水指を引いて茶道口の脇に置いて挨拶して終り）